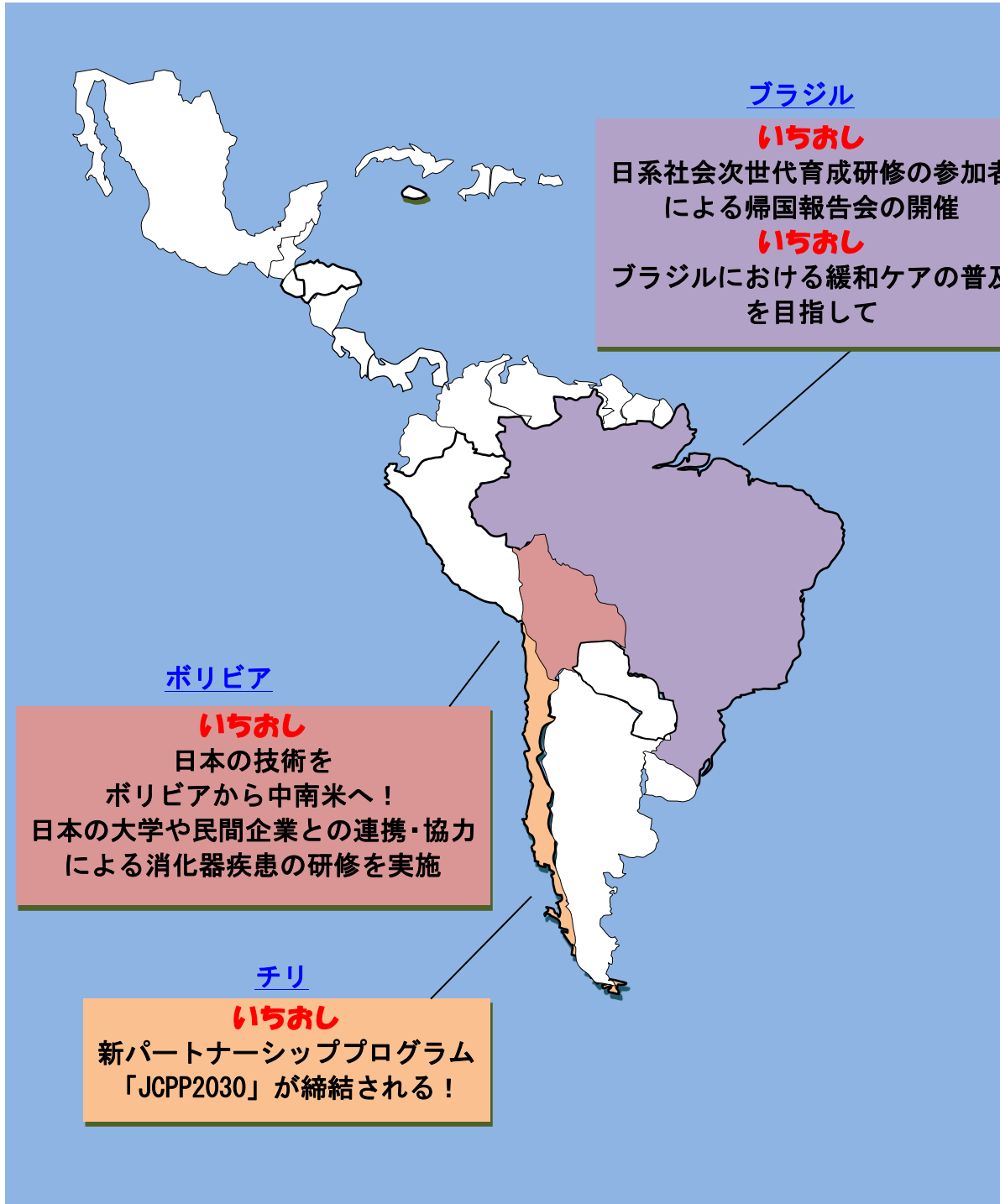




JICA いちおし 4月号

(2018年4月2日発行)



* 国名にはリンクを張っております。あわせてご確認ください。

チリ

いちおし！

新パートナーシッププログラム「JCPP2030」が締結される！

2018年2月23日、安倍総理、バチェレ前大統領の立ち会いの下、東京にて両国の外務大臣がJCPP2030の覚書に署名しました。日本は、1999年に中南米地域で初めてチリとの間でパートナーシッププログラム（JCPP）を締結。チリは日本からの技術協力の成果を活用しつつ独自の開発モデルに発展させ、農林水産、保健医療、環境、防災分野などでの人材育成を通じて域内の開発のために貢献するというパイオニアとしての役割を果たしてきました。JCPP2030は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実現に資するため、日本とチリが協働でその目標達成を目指し、域内での三角協力をさらに促進しようとするものです。

JCPPを通じて、域内でのこれまでの日本とチリの活動が高く評価される中、これからパートナーシップも新しいステージに入っていきます。チリが、2018年1月に開発援助委員会（DAC）の援助対象国リストから外れODA卒業が予定される中で、今回のJCPP2030締結という成果を得たことは、チリとの協働による今後の事業の進め方が、援助卒業が想定される他の中南米の国にとって、教訓となる開発モデルとして注目されるものになっていくものと考えています。



JCPP2030 署名式

[表紙へ](#)

ボリビア

いちおし！

日本の技術をボリビアから中南米へ！ 日本の大学や民間企業との連携・協力による消化器疾患の研修を実施

日本・ボリビア消化器疾患研究センター（ラパス及びスクレ）において、JICA 第三国研修「消化器病学及び消化器内視鏡診断アドバンスコース」（4月11日～14日ラパス市、4月16日～18日スクレ市）を開催します。

日本・ボリビア消化器疾患研究センターは、1970年代に日本の無償資金協力で建設された後、技術協力が実施され、日本で研修を受講した医師も多く勤務する施設です。ラパスのセンターは、2004年に世界消化器疾患機関¹より中南米初トレーニングセンターとして認定されています。本研修は、ボリビアにおいて約40年に及ぶJICAの保健医療協力の拠点から、中南米地域へと協力を拡大し、専門性の高い人材育成を支援するものです。

今回は、中南米全域及びボリビア国内から40名以上の参加を予定しており、外国人講師として、東京大学及び九州大学の専門医による講義が行われるほか、本邦主要光学メーカー（オリンパス、富士フィルム、ペンタックス）から機材が提供され、これらを用いた研修が実施されます。また、近年大腸がんの増加が懸念される中南米地域において、大腸がんの早期発見を促し、診断・治療を強化すべく、大腸がんに関心をおいた講義に加え、栄研化学の便献血検査用試薬を用いたコミュニティでの大腸がんスクリーニング検査も予定しています。

日本の大学・民間企業の協力に加え、ボリビア国内の製薬会社や銀行等の支援を予定しており、大学、民間企業の連携による研修の実施が実現され、中南米地域の人材育成に貢献することが期待されます。



実際の症例を用いた内視鏡診断研修



大腸がんモデルを利用した
地域住民への予防啓発活動

[表紙へ](#)

ブラジル

いちおし!

日系社会次世代育成研修の参加者による帰国報告会の開催

JICA の日系社会次世代育成研修は、中南米などの日系社会における中学生と高校生を対象に、様々なプログラムを通して日本への理解を深めることで、日系人としてのアイデンティティを強化するための研修です。

2018年1月から約1か月の研修に参加した中学生と高校生や引率教師が、帰国報告会に参加します。研修を希望する生徒たちへ、日本の経験などを発表します。

【帰国報告会】

日付：2018年4月28日（土）

時間：13:30～15:00

場所：ブラジル日本語センター（Rua Manuel de Paiva, 45）

昨年、中学生を対象とした日系社会次世代育成研修が30周年を迎えました。この研修が引き続き、日系社会での日系継承語教育の振興を促し、日系社会の次世代を担う人材の育成に寄与することを期待します。



1月に研修へ出発した生徒たち

いちおし!

ブラジルにおける緩和ケアの普及を目指して

サンパウロのSBC病院と日本赤十字北海道看護大学の間で、JICA 草の根技術協力事業「SBC病院緩和ケア教育プロジェクト」を開始しました。

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦

しみを予防し、和らげることで、クオリティー・オブ・ライフを改善するアプローチです（世界保健機関による定義）。

ブラジルでも日本のように高齢化社会を迎えています。しかしブラジルでは緩和ケアの普及が遅れており、また国民に対する死の準備教育が不足しています。

緩和ケア分野で豊富な経験を持つ日本赤十字北海道看護大学と SBC 病院が協力することで、SBC 病院がブラジルの社会に質の高い緩和ケアを提供し、また緩和ケアを提供する医療機関としてリーダー的役割を担っていくことを目指します。



プロジェクトの対象となる、SBC 病院緩和ケアのスタッフ

[表紙へ](#)

以上